十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	④－1	実施計画番号		事業開始年度	H11
事務事業名	十和田湖冬物語補助金			事業終了年度	
担当課名	観光推進課			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等			関連事務事業		
背景や経緯等	十和田湖冬物語は、平成10年に青森県文化観光立県宣言のもと、文化観光立県宣言記念イベント実行委員会が、県の観光振興の最大の課題である冬季観光について、国内で有数の優れた景観を誇る十和田湖において、全国から誘客できる中核イベントを目指して、それまでの十和田湖冬紀行と併せて開催したことに始まる。この開催経緯があり、青森県及び十和田湖町(現十和田市)が平成11年以降も十和田湖冬物語実行委員会に対して定額補助を出している。 県が単独市町村のイベントに対して補助金を出しているのは十和田湖冬物語のみである。 このことにより、収入における補助金依存度が非常に高いイベントとなっている。				
事務事業の目的	青森県の冬の魅力を体感させ、十和田湖・奥入瀬地区への全国からの冬季観光客の誘客を促す。				
実施状況	東北新幹線八戸駅開業の平成14年度に25.2万人の来場者数を記録して以来20万人以上の誘客を維持している。 テーマを「雪と光」としており、冬花火やLEDイルミネーションによる光のゲートやトンネル、スノーランプ、かまくらバー、雪のすべり台のほか、ゆきあかり横町やステージイベントなどの実施内容となっている。				

【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	10	10	10
	人件費(千円)	360	360	360
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)	0	0	0
	活動日数(日)	0	0	0
	人件費(千円)	0	0	0

【事業費の推移】

事業費合計(千円)	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
	8,000	5,000	8,000

【指標】

活動指標	活動指標名①		開催日数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			日	24	24	24
	活動指標名②		出店者売上額			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			千円	26,431		
成果指標	成果指標名①		来場者数			
	計算式等	単位		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
		人	目標値	200,000	200,000	200,000
			実績値	209,000		
			達成度(%)	105%		
	成果指標名②		1日平均の出店者売上額			
	計算式等	単位		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
	出店者売上÷開催日数	千円	目標値	2,364.0	2,364.0	2,364.0
			実績値	1,101		
			達成度(%)	47%		

十和田市事務事業評価シート

【担当課による検証】

		ポイント	検証（選択）	評価	点数	合計	検証の理由
妥当性	①	**市民ニーズ等から見る妥当性** 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 0 ／4
	②	**実施主体である妥当性** 行政が実施することが妥当か（民間と競合していないか）	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2		
有効性	③	**活動指標から見る有効性** 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1	2	成果向上の余地 4 ／6 出店者の売上は横ばいであるが、成果指標②に示したとおり仮に補助金無で現在の売上高を維持させるために必要な売上高（目標値）には遠く及ばず、補助金頼みのイベントになっている。
	④	**成果指標から見る有効性** 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	C	0		
	⑤	**事務事業の見直しの余地** 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1		
効率性	⑥	**事業費の削減の余地** 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	B	1	4	コスト削減の余地 2 ／6 イベント運営は同じイベント会社に継続して委託しており、経費が固定化している。他のイベント会社で安く委託できないか検討の余地がある。
	⑦	**他の事務事業との統合・連携** 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2		
	⑧	**民間委託等** 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	B	1		
公平性	⑨	**受益の偏り** 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	B	1	2	受益者負担適正化の余地 2 ／4 宿泊者数や来場者数が地元宿泊業者や商店街の活性化につながっているかについて検討の余地がある。
	⑩	**受益者負担の見直しの余地** 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1		
				現在の適性		12 ／20	改善の余地 8 ／20

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 12 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 8 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性（選択） ⇒ 有効性を改善して継続

方向性の理由

青森県全体の冬季観光の中核イベントとしての役割は薄れていない。実施内容や受け入れ態勢などを強化するための部分として補助金は継続する。

今後の具体的な取組方策と狙う効果

県の冬季観光の中核イベントとして役割に応えるためにも、内容的には、より「雪国体験」や「幻想的空間」を強化し、また、十和田湖で行っているイベントとしての特色の強化やイベントと売上につなげる仕組みを構築することや、外国人観光客受入態勢をとること等の改善が必要である。それが売上に結びつき、徐々に補助金依存イベントから脱却することにつながっていくと考える。